

東海大学における原子力教育

東海大学創始者 松前重義

1955年 スイス ジュネーブ

国際原子力平和利用会議に出席

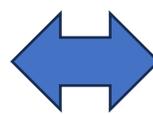
1956年 原子力工学専攻（現・原子力工学科）開設

今年で68周年、原子力の卒業生は4,000人以上



東海大学 工学部

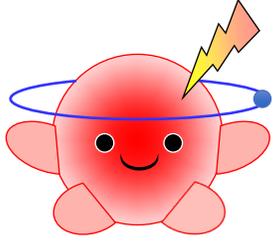
東海大学 理学部



東海大学
国際原子力研究所

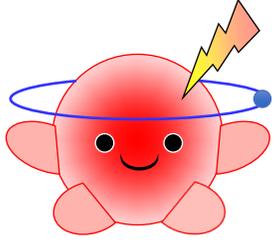
研究所所長 近藤 駿介

学部の共通科目としての原子力・放射線教育を実施するとともに、卒業研究を経て、大学院研究科共通カリキュラムとしての原子力工学分野の専門人財を育成。



東海大学における課題とニーズ

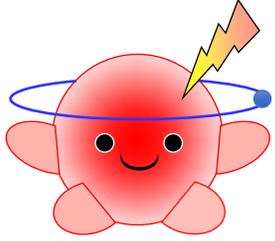
- 本日の論点
- 論点 1 「大学における核不拡散・核セキュリティ・核軍縮の教育の在り方」
- 論点 2 「アジア地域・グローバルな連携、大学と研究機関の連携」



東海大学における課題とニーズ

・論点 1 「大学における核不拡散・核セキュリティ・核軍縮の教育の在り方」

- ・ 原子力平和利用の前提となる「核不拡散・核セキュリティ・核軍縮」教育の重要性
- ・ 日本の大学として、「広島、長崎」、「福島第一原子力発電所事故」の経験・教訓・決意を世界の専門家へ伝える責務
- ・ 「炉心損傷事故のリスクは存在する」、「原子炉の不法占拠のリスクは存在する」それらを前提とした「安全文化」、「核セキュリティ文化」の醸成とは？
- ・ 国内における若手専門家の育成と海外専門家（特に新規導入検討国からの留学生）の育成



東海大学における課題とニーズ

・論点2 「アジア地域・グローバルな連携、大学と研究機関の連携」

・ IAEAと東海大学の連携による教育プログラム (原子力安全教育分野)

<https://www.u-tokai.ac.jp/news-campus/931141/>

IAEA が 2017 年 10 月から原子力・放射線分野の安全利用を担う次世代リーダーの育成を目的に世界各国で行っている研修プログラムの一つ



2024. 2月 東海大学湘南キャンパスにて開催
参加国、インドネシア、カザフスタン、マレーシア、タイ、ベトナム、フィリピン、モンゴル

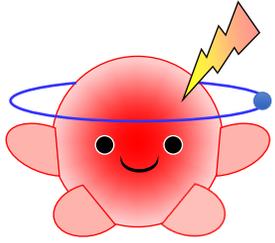
今後の予定(別途募集)

第5回 IAEA 国際スクール:原子力・放射線安全リーダーシップ、**2025年2月24日～3月4日**

第10回 IAEA 原子力安全基準研修コース、**2025年3月17日～21日**(10周年記念開催)



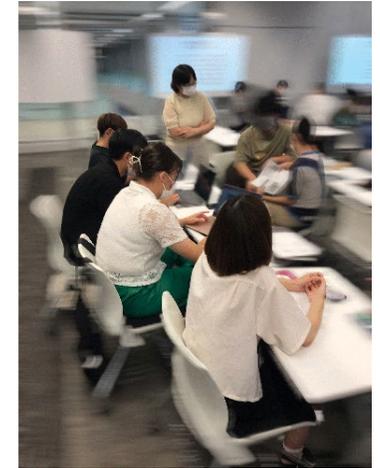
安全とセキュリティのインターフェイスの理解深化も重要な課題か？



東海大学における課題とニーズ

大学での初学の学生への教育に関するISCNとの連携

「核不拡散・核セキュリティ・核軍縮」は、原子力利用を学ぶ上で前提となるリテラシーであるが、教育できる専門教員は限られ、ISCNに期待。**現場の手触り感のある教材（封印タグ、遠隔VR等）**も魅力。



井上センター長による
ディスカッション指導

大学院生レベルへの教育に関するISCNとの連携

- アラブ首長国連邦（UAE）、サウジアラビア、インドネシアからの留学生が**IAEA-ISCNでのサマースクール**（夏季実習）に参加。核不拡散、核セキュリティの研究テーマはグローバルであり留学生にフィット。
- サウジアラビアでの「核セキュリティ」カリキュラム用のテキストブックの整備：**ISCNでの指導後**、大学にてテキスト取り纏め

<https://www.u-tokai.ac.jp/ud-engineering/news/8560/>

- UAE発電所のシビアアクシデントを想定した周辺地域への事故影響評価：**ISCNでの大気拡散解析（HYSPLITコード：NOAA）指導後**に大学にて解析



UAEバラカ原子力発電所の事故影響を評価